

稲 グ リ 新 聞

〈発行〉
早大グリークラブOB会
稲門グリークラブ
〈編集〉
富永 侃
原 信二
佐々木 豊
(毎月1回発行)

「水のいのち」を指揮するに当たって

岡本 俊久(四八)

(無くてもいい言葉を考えて見よう)

この詩をどう読むか、どう感じるかは人それぞれだと思います。ただ、私がポイントだと思う言葉を挙げて見ますと、

一曲目 二回出てくる「また」

「おお」

二曲目 「だが」

三曲目 「だが」・「おお」

四曲目 「しかし」・「そして」

五曲目 「そして」・三回出てくる「おお」

(出てくる場所は、楽譜の中でそれぞれ確認してください。)

これらの言葉は全部、無くしてしまっても意味は通ります。しかし、詩人が必要を感じて書いたものです。どうかこれらの、無くてもいい言葉に十分な意味を持たせていただきたいと思います。

その方法は、その言葉の前後で、音色、表情、表現等を適切に変化させることでしよう。何をどう変化させるかは私達のセンスにかかっています。私も私なりに考えます。どうか皆様も、「今さらと……」と思わないで考えてみてください。

桜楓、桜友という素晴らしい女声陣の手をお借りして、一味違った「水のいのち」が定演のステージで華開けば幸せです。

《編集局より》

第四ステージの指揮者岡本さんの原稿が当局に届いたのが、前号(三九号)締切後で間に合わず、四十号ではスペースの関係で浮いてしまい、この号外となった次第です。(本当は机の引き出しの中に忘れ去られていたのです。ゴメンナサイ。)

皆さん、今朝早起きして作った号外ですから熟読玩味して下さいね!